

千葉労働局長による建設工事現場の安全パトロールを実施しました

～令和3年度 年末年始無災害運動の一環として実施～

年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無事故で過ごし、明るい新年を迎えることができるようにという趣旨で、厚生労働省の後援のもと、中央労働災害防止協会が主唱する全国的な運動です。千葉県内では、千葉労働局や千葉県産業安全衛生会議などが運動を展開しており、その実施期間は12月1日から1月15日までとなっています。

令和3年度の年末年始無災害運動の期間が始まるにあたって、千葉労働局では12月2日に安全パトロールを実施し、千葉労働局長自ら無災害の呼びかけを行いました。

パトロール工事現場

施工者：三菱重工業株式会社

工事名称：姉崎火力発電所発電設備建設工事

所在地：市原市姉崎海岸

労働局出席者

江原由明 千葉労働局長、松崎勉 千葉労働基準監督署長ほか

【パトロール概要】

パトロール冒頭の挨拶において、千葉労働局長は「今年の県内の建設業における死亡災害は昨年より減少していますが、本来、死亡災害はあってはならないものであり、『死亡災害を始めとする重篤な災害を絶対に発生させない』といった強い意思の下、安全衛生管理



↑ 冒頭の挨拶をする千葉労働局長（中央）



↑ 工事概要を説明する村上作業所長

活動が有効に機能しているか、形骸化していないか、今一度、確認をお願いしたい。」などと話しました。

次に作業所長から工事概要について説明を受けた後に現場巡視を始めました。





↑ 作業所長に安全管理や施工方法などについて質問する千葉労働局長 ↑

現場巡視では、高所作業が安全に行われているか、転倒予防の対策が講じられているかなど、災害防止対策が適切に行われているか、直接確認しました。

現場巡視中、村上所長は手に持った鐘を鳴らしながら歩いていましたが、所長は普段から鐘を鳴らしながらパトロールをしており、仕事に没頭していると、どうしても安全に気が回らなくなることがあるため、鐘の音を聞くことで各作業員が安全に作業することを再認識させる効果を狙っているものということでした。

また、1日の作業員が1,000人を超えている状況で、全ての作業員に必要なことを伝えることが難しい中、朝礼は複数回に分けて行うこととしたほか、朝礼会場となる場所には100インチのモニターを2台設置、活用することにより、視覚に訴える注意喚起を心掛けているということでした。



↑ 朝礼台と朝礼台に設けられたモニター

← 高所作業が安全に行われているかを確認するパトロール員（右端は千葉労働基準監督署長）



↑ 所長の鳴らす安全の鐘

また、現場巡視後、局長からの質問を通じて、高所作業などの危険作業を極力少なくする本質安全化やICTを活用した安全管理への取組といった、新しい安全管理手法の導入も進んでいることを確認しました。

最後に千葉労働基準監督署長より講評を行い、墜落防止、転倒防止、整理整頓などいずれも良好であったと総括し、パトロールは終了となりました。



講評を行う千葉労働基準監督署長 ↑